群馬県立榛名高等学校　学校評価一覧表（令和6年度版）

（別紙様式）

羅針盤			方策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 「チャレンジハイスクール」の取り組みを理解し、学習・体験学習・行事に積極的に参加する生徒が８０%以上である。	・基礎・基本学習、体験型自己開発学習（体験活動、資格取得）、人間づくり学習（あいさつ、身だしなみ、ボランティア活動、学校行事への参加）の３つの柱を意識した教育活動を、学校生活の様々な場面で展開する。 ・生徒の実態に即し、成長を促すような授業や学校行事、体験活動の取組を工夫する。	A	A	A	・今年度は新型コロナウイルス感染症の収束を受け、感染症対策をしつつ、コロナ禍以前のように活動の機会を多く設けることができた。今後は行事を精選し、生徒が充実した学校生活を送れるように、指導の工夫・改善に努めたい。総合的な探究の時間においては、課題の設定から情報収集、各活動の振り返りを繰り返し行うことで、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指したい。	・今年度も総じて非常によい学校運営がなされたと思う。 ・チャレンジハイスクールの取組は貴校を志願している生徒にとって大変魅力的である。引き続き充実するようお願いしたい。 ・コロナ対応の中には廃止したことで見えてきたことが多々ある。整理の機会と考える。 ・この項目は学校の特長をよく表している項目なので、達成度が高いのはすばらしい。
		② コース別の特色ある学習活動に満足（期待）している生徒が８０%以上である。	・各コースの特徴を生かし、生徒が興味・関心をもって取り組める学習内容を工夫し、学びへの関心を高める指導を行う。	A	A	A	・年間を通して本校のコース別学習に満足（期待）しているという回答が外部評価全体では80%以上得られた。新教育課程初年度に対応した取り組みを実施できたので、次年度以降さらに満足した学習を生徒ができるように、コース制の充実を図っていきたい。	・好きな事の大枠に気づければ最良であると考える。
		③ 自分の学校が好きだと感じている生徒が、８０%以上である。	・学校行事、生徒会行事、部活動、ボランティア活動等への自主的な参加を通して、学校に誇りや関心がもてるようにする。 ・生徒の様子を観察し、必要に応じて声かけや話を聞くなどすることで、生徒一人ひとりの個に応じたきめ細かな指導を行う。	B	B	B	・生徒と保護者・教職員との評価に差がある。保護者→教職員→生徒の順に評価が低くなっている。教職員は多くの生徒が学校を好きだと考えているが、実際は３割程度の生徒が学校が好きではないと考えていることが問題点である。悩みを抱えた生徒たちに対し、教育相談的なアプローチとともに、生徒が学校を好きになるような活動を増やしていくことも今後の課題である。	・毎年度、同様の傾向がみられる。生徒の自由記述欄を分析の上、活動の内容や外部講師等についての具体的な検討が必要だと思う。 ・学校の特色を生かし、魅力的な学校作りを生徒目線で考えたい。 ・学校が好きであるとの数値が低いことに対して、何が問題なのか細部にわたり考えてほしい。
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 基礎・基本が身に付いたと感じている生徒が、８０%以上である。	・短時間集中授業、少人数・ＴＴ等、多様な形態の授業を取り入れ、基礎・基本学習の充実を図る。 ・小中学校の学び直しの授業、分かる授業への授業改善を推進する。	A	A	A	・基礎・基本学習の徹底を図ってきた結果、外部アンケートでは８０%以上の達成度となった。教職員の評価がAとなっているのは、今年度の1年生の生徒数が少なく、個々の生徒にきめ細やかに指導できたことの結果と考える。スタディサプリ及びBYOD（クロームブックを含む）の活用を通して引き続き基礎・基本学習を徹底していきたい。	・満足度が上がった科目がある反面、あまり反応が芳しくない科目も散見される。生徒の学びとなり、より分かりやすい授業の実施について、引き続き検討していただきたい。 ・この項目がよい評価は自信をもってよいが、学力に結びついていないのが気になる。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤ 課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む生徒が８０%以上である。	・様々な教科・科目の授業で、生徒が自分で考え、自分から取り組めるよう、主体的・対話的で深い学びの視点に立った指導を行う。	B	B	B	・積極的に資格取得に取り組む生徒が増えてきている。結果に結びつくには時間のかかる生徒も多いので、根気強く指導していくことが重要である。総合コース及び１年生へ資格取得の挑戦を促すことで、さらに生徒の意欲を高めたい。また保護者に向け検定への取組や結果についても連絡網を活用するなど広く情報を発信していきたい。	・資格取得に特化すべく、目玉的なコース設定が必要かもしれない。 ・評価が低いのは、実感がわかないからではないか。
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥ 生徒情報交換会や学年会議が月１回以上開かれている。 ⑦ 挨拶がしっかりできると感じている生徒が８０%以上である。	・生徒個々の情報を共有し、全職員の共通理解の上で「個」に応じた指導をする。 ・登校時や授業の開始終了時等の挨拶を指導し励行する。 ・職員から積極的に挨拶し、校内で挨拶が交わされやすい雰囲気を醸成する。 ・朝の「挨拶運動」を定期的継続的に行う。 ・生徒会や風紀交通委員等、生徒自身が率先して挨拶運動を実施する。	A	A	A	・中学時に不登校傾向のあった生徒の影響もあり、欠席率や遅刻率の増加傾向が続いている。 ・悩みを抱えた生徒のカウンセリングが生徒の学校生活適応に役立っている。今後も、「学校生活アンケート」（いじめ防止対応）等、継続していきたい。 ・毎月の生活指導週間では、朝の登下校時に職員、風紀交通委員、生徒会役員で生徒玄関に立ち「朝の挨拶運動」を行っている。生徒間同士でもさわやかな挨拶が交わされている。	・不登校経験のある生徒が再出発できるよう受け入れ、手厚く支援してくださる貴校は、中学校からすると大変ありがたい存在である。 ・挨拶を先にできた人が社会では上位格になりやすいと考えるので、引き続き挨拶運動に力を入れていただきたい。 ・挨拶はよくなっていると思うが、始業時間に路上で見かける遅刻者が気になる。
		⑧ 学校安全管理マニュアルを確認し、校内の美化、安全点検を定期的に実施している。	・毎月「月例清掃」を実施し、生徒が校内美化や安全についての意識をもち、積極的に取り組めるよう指導する。 ・学校安全管理マニュアルを見直し、確認のシミュレーション（訓練）を年２回実施することで職員の共通理解を徹底する。	A	A	A	・校内美化に対する意識がもてるよう、まずは身の回りの整理整頓や細部の清掃を徹底し、普段行っている清掃を丁寧に行うとともに、毎月実施している「月例清掃」の充実を図っていきたい。 ・４月に地震を想定した避難訓練、１１月に火災を想定し、消防署の指導も受けた避難訓練を行い、避難経路や避難場所など緊急時の対応について周知できた。やや防災意識が低い傾向にあるので、来年度は生徒の防災意識がより高められるよう実施していきたい。	・本県では地震より火災の方が可能性が高いと考えるので、避難訓練を十分に行っていただきたい。 ・校内見学の際に、整理はきちんとできていると感じた。より一層の整頓をお願いしたい。今後は部室見学も検討していただきたい。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑨ いじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に行っていると感じている生徒・保護者が８０%以上である。	・定期的に「学校生活（いじめ）に特化したアンケート」を実施し、生徒間のトラブルを早期に発見・解消する。 ・必要に応じ、二者面談を実施し、生徒の学校生活全般をサポートする。	A	B	B	・内部評価と外部評価が分かれている。いじめの早期発見・防止のため、年に３回「学校生活アンケート」を、また年８回「学校生活点検日」を設け、生徒のいじめや悩み・不安の早期発見に努めている。しかしながら、学校評価アンケートでは、生徒が教員に悩み等を十分に相談できていないと感じている実態がある。二者面談等を適宜行い、また生徒が話しやすい雰囲気づくりを目指したい。	・見えない、隠れたところで発生する長年の問題であり、いかに生徒に目を向けられるか、日々の関係性が重要と考える。 ・逃げ場がない学校なので、「愛されていることを自覚させる」事が肝要であると考える。 ・評価が多少低いのはSNS等のいじめがあると心配される。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑩ 全校の遅刻率3%以下、欠席率が4%以下である。	・家庭と連絡を密にし、保護者と連携を図って、基本的生活習慣の定着を目指した指導を行う。	B	B	B	・今年度は、新型コロナウイルス感染症の収束を感じてはいたが、欠席率や遅刻率は、昨年同様に増加傾向を示した。 ・今年度は、スクールカウンセラーから「発達の特性のある生徒の指導について」の研修を実施した。また自死防止に関しては、必要に応じてケース会議を開き、対応している。心配な生徒に関しては、長期的なサポートが重要である。 ・来年度は、生徒指導に関する重大な案件等の発生に備えて、緊急体制マニュアル等の作成を検討している。	・次年度はスクールカウンセラーとは別の専門家の方を招いての研修を実施してもよいかと考える。例として、小児看護学の専門教員（外部講師）を招いての授業などが考えられる。 ・スクールカウンセラー制度を活用し、強制的に全生徒と面談する時間を設ける必要があるかもしれない。 ・スクールカウンセラーによる教員の研修は、先生方の生徒理解を深め、指導・支援の充実を図るために大変有効であると思う。
		⑪ 悩み、困りごとがあるときは先生やスクールカウンセラーに相談できると感じている生徒が８０%以上である。	・カウンセリングルームを活用し、悩みや困り感の解消の手助けをしながら、学校適応指導を行う。 ・毎月末を、生徒自身が自己の学校生活を点検する「学校生活点検日」とする。 ・定期的に二者面談を実施し、相談しやすい環境を作る。					
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑫ 外部講師を活用した進路行事を年３回実施する。	・発達段階に応じたキャリア教育を推進するために、必要な知識を持った外部講師に講話等を依頼する。 ・地元企業関係者や卒業生を講師として積極的に活用する。				・新型コロナウイルス感染症が収束し、コロナ以前のように外部講師を招いて発達段階に応じたキャリア教育を推進するためのガイダンス等を実施することができた。 ・先輩と語る会については来校での開催を計画しているので、開催方法を充分に検討していきたい。	・外部講師の希望や生徒や保護者にアンケート等で聞いた意見を参考にしてはどうか。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑬ 進路行事に積極的に参加していると感じている生徒が８０%以上である。 ⑭ 生徒の進路希望に理解を示している保護者が８０%以上である。	・体験型自己開発学習として、１学年で「福祉体験」「上級学校体験」、２学年で「職業体験」、３学年で「進路研究」を行う。 ・進路希望調査の結果をもとに、三者面談等を実施し三者の共通理解を図る。	B	B	B	・体験学習はキャリア教育に欠かせないので、生徒が満足を得られるように最善の方法を検討していきたい。今年度も多くの地元企業に協力していただき、生徒に体験する場を用意することができた。また、今年度の体験学習は例年より遅らせて実施した。実施時期については、修学旅行日程、企業の受け入れ態勢等を考えながら計画を立てていきたい。 ・担任が三者面談時に必要な情報を提供し、生徒と保護者の進路希望を掌握し、具体的な対策が立てられるように協力していきたい。	・就職・進学に向けたカリキュラムを増やす等、卒業後のイメージ作りも必要である。 ・職員の努力は感じるが、進路に不安がある生徒がいるのが心配である。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑮ 学校の取り組みをよく理解しているという保護者が、８０%以上である。	・学年通信、保健便り、図書館便り等の各種の便りを定期的に発行するとともに、メール配信システムの活用を通して保護者に学校の様子が確実に伝わるようにする。 ・Webページの充実とメディアの活用による地域への情報提供を図る。 ・学校行事への保護者の参加を呼びかけ、協力して生徒を育てる態勢をつくる。 ・PTA総会、講演会、三者面談等、保護者が学校に出向いて学校の様子を知る機会を積極的に計画する。	B	B	B	・目標の80%以上を達成することができなかった。学校の様子を保護者に十分に伝えるためには、メール配信システムを活用して、一度だけでなく複数回保護者に学校の様子を伝える等、生徒の学校での様子を理解できるよう工夫が必要である。 ・今年度は行えなかったが、PTA本部役員に協力を依頼し、保護者と協力して生徒を育てる活動を今後も行っていきたい。 ・夏季休業中に全保護者と、１月には１学年の全保護者と三者面談を行い、担任から学校の様子を伝えることができている。今後もいろいろな場面で学校の様子を伝えていきたい。	・PTAからも発信ツールを使って行えばよかったかと反省する。アナログではあるが、紙ベースで年３回発行するPTA新聞も考えられる。 ・メール等だけでなく電話でのアンケートを行い、実際の声を聞くのも大切であると考える。
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	10 ＩＣＴを活用した指導を行っていますか。	⑯ ＩＣＴ機器を使った授業が８０%以上である。	・スライドや画像や動画などの教材をプロジェクターで投影する形態の授業を取り入れ、生徒の興味・関心を喚起する。 ・クロームブックの使い方を職員に紹介したり、研修の機会を設けたりする。	A	A	A	・ほとんどの教職員がクロームブック等のICT機器を活用しており、大半の教員は授業に積極的に取り入れ成果を出している。生徒の方がICT機器の利用に対しては積極的であり、また、今年度の新入生からはBYODが導入されているので、職員のスキルアップと生徒のリテラシー向上が今後の課題である。	・企業では2025年にWAVE3.0、VRなどが始まっているので参考にされたい。 ・デジタル化は特に保護者には受け入れられていると感じる。
	11 ＩＣＴを活用した業務改善を行っていますか。	⑰ オンラインによるアンケートや通知に、生徒・保護者の８０%以上が満足している。	・職員会議の資料をデジタル化して提示することでペーパーレス化を図り、印刷業務を軽減する。 ・グーグルフォームを使ったアンケートを生徒・保護者に実施して、集計の効率化を図る。また、メール配信システムを活用して連絡の効率化を図る。	A	A	A	・職員・生徒に対する学校評価アンケートを情報端末で行うことができ、大幅な業務改善となった。今年度は保護者に対してのアンケートの実施も行うことができたが、回答率の向上が課題となった。今後もGoogleフォームを使ったアンケートなどを各分掌で積極的に取り入れていくことも業務改善につながると考える。	・アンケートの回答率の向上を追求するのであれば、紙面を併用してもよいが、業務改善とは逆行するので、リマインド対応が妥当であると考える。 ・教育のデジタル化と同様、本様式もメール配信し、データ入力でよいものと考える。